

賀茂競馬

日付：5月5日

賀茂競馬は、5月15日に行われる壮大な賀茂祭（葵祭とも呼ばれる）に先駆けて上賀茂神社で開催される、馬を競争させる儀式です。一連のお清めの儀式やお祈りの後、伝統的な宮廷舞踊の舞楽の衣装を着た熟練の乗り手が全速力で馬を疾走させ、叫びながら、馬をゴールへと駆り立てます。このダイナミックな賀茂競馬は国の平和と豊穡を願って、賀茂別雷大神への奉納として開催されます。

歴史

堀河天皇（1079～1107）は、京都御所で伝統的に行われていた馬の競争を、1093年に上賀茂神社の神様に贈ったと言われています。この行事は、賀茂競馬として知られるようになり、以来、上賀茂神社で開催されています。この儀式は、その長い歴史と宗教的重要性が認められ、京都市の登録無形民俗文化財に登録されています。

儀式の準備

上賀茂神社の一の鳥居と二の鳥居の間の道の左側に、200メートルの競馬場が特別に用意されています。当日は、賀茂別雷大神がこの儀式を見守るために競馬場の脇の一時的な祭祀所に移されます。それから、参加者を清めるため、そして平和や豊作、競争が安全に終わることを祈願するために、さまざまな儀式が行われます。この儀式では、儀式用のお酒を飲むこと、榊の枝を奉納すること、そして上賀茂神社が古くから採用していた陰陽思想を反映した、馬に乗って太陽と月の形を描くことなどが行われます。

賀茂競馬

賀茂競馬は、午後2時頃から始まります。儀式には馬の競争が含まれますが、その形式は現代のスポーツとはかなり異なります。乗り手と馬の両方の健康と体力の正式な検査が事前に行われ、競技者は均等に釣り合っている2つのチームに分けられます。左方チームは明るい朱色の衣装を着ており、右方チームは茶色と黒の衣装を着ています。

典型的なレースでは、すべての乗り手が同じラインからスタートし、最初にゴールへ到達しようと努めます。一方で、賀茂競馬の乗り手は、一対一で競い、少し距離の離れた位置からスタートします。この競争はおおよそ5戦で構成され、各組の乗り手はそれぞれのチームと見守っている神様のために勝利を目指して努力します。各対戦の勝者は、馬と馬の距離が広がるか短くなるかに基づいて、2人の審判によって決定されます。左方チームは、1093年に行われた最初の賀茂競馬での勝利を記念し

て、既定で 1 勝を挙げた状態でこの儀式を始めます。左方チームが儀式の最後に勝利していれば、特に豊作になると言われています。